

学校長のことば

例年になく春の訪れも早く、春の陽気を肌で感じるようになりました。梅の花も満開の時を迎え、桜も日に日に花芽をつけ、学校の周辺の木々にもようやく春が来ようとしています。今日の良き日、本来であれば、ご来賓方々及び保護者の方々の御臨席を賜り、また在校生も参列して卒業式を執り行うところですが、国内で新型コロナウイルスの感染が相次いでいます。そのため、感染拡大防止の観点から、時間短縮及び参加人数の制限を行うため卒業式の簡素化を図ることにしました。皆さんの人生に1度きりの高校の卒業式が、このような形式になってしまったことは大変残念に思っています。しかし国内非常事態の中、日本国中が感染拡大を防ぐため、あらゆる取り組みを行っています。その一環としての取組に是非ご理解いただければと思います。

さて、先ほど卒業を認定しました、卒業生219名の皆さん、卒業おめでとう。今ここに神奈川県立商工高等学校第94期生として72回目の卒業の時を迎えました。みなさんの心には、不安でいっぱいだった入学式、クラスの団結が強まった体育祭・商工祭・球技大会、また社会見学や修学旅行などの校外活動、目標を設定し資格取得に取り組んだことなど、多くの学校行事や部活動など、この3年間の高校生活の思い出が走馬灯のように浮かんでいることかと思えます。

学校行事、学習活動を通じ、学校生活を謳歌し、進路を定め、厳しい社会情勢に負けることなく、個性を光り輝かせ、新たな航海へ向け、商工高等学校という港から、今、とも綱を解き、大海に漕ぎ出す時を迎えました。大海は果てしなく、世界へつながっています。波の彼方を望み、目標に向かって一人ひとりの「心」という羅針盤を信じての出航です。大海では多くの困難が待ち受けているでしょう。星を読み、風をとらえ、波を越えて、水平線の彼方へ向けての航海です。自ら創造した大きな夢を実現するために、挑戦することの無限の可能性を信じて、これからも力の限り、人生の海原を、目標に向かって自らの力で漕ぎ続けてください。一人ひとりの船は小さく、心細い日もあるかもしれません。しっかりと自分の羅針盤をみつめるとともに、家族や友人を信じ、神奈川県立商工高等学校第94期生としての誇りを胸に、皆さん一人ひとりのこれからの航海を精一杯楽しんで下さい。

卒業する皆さんは、これまで本校の教育活動の原動力となり、日々の熱心な学習や、活発な部活動が、活気ある学び舎をつくりだしてくれました。商工高等学校での熱き思いを胸に、広い海原に漕ぎ出して下さい。いつか航海に疲れたときは、母校という港にも立ち寄ってください。温かくみなさんを迎え入れてくれる後輩や先生達があります。良い風に吹かれ、心と体をリフレッシュして、心新たに再び大海に出港できるように、みなさんの背中をそっと押してくれるはずです。

結びに、卒業生の皆さんのこれからの活躍とご健康を祈念するとともに、新たな航海の無事を祈り、卒業式の式辞といたします。

令和2年3月1日
神奈川県立商工高等学校
第21代校長 塩原 正美